

地域の会

～ 3月定例会・4月定例会 概要 ～

「地域の会」では、発電所そのものの賛否はひとまず置いて、安全運転に係る事業者や行政当局の必要にして十分な情報提供に基づき、発電所の安全について状況を確認し、地域住民の素朴な視線による監視活動を行うとともに、必要な提言を行うことを目的に、平成15年5月に発足、設置趣旨に沿った様々な活動を行っています。

任期2年間の活動の総括として「要望書」を関係機関へ提出しました。

経済産業大臣 西村 康稔 様
資源エネルギー庁長官 保坂 伸 様
内閣府特命担当大臣(原子力防災) 西村 明宏 様
原子力規制委員会委員長 山中 伸介 様
原子力規制庁長官 片山 啓 様
新潟県知事 花角 英世 様
柏崎市長 櫻井 雅浩 様
刈羽村長 品田 宏夫 様
東京電力ホールディングス株式会社
代表執行役社長 小早川 智明 様

令和5(2023)年4月12日



東京電力に要望書を手渡す三宮会長

柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会
会長 三宮 徳保

柏崎刈羽原子力発電所の安全性を一層高めるための要望書

日頃から、当会の活動に対しまして、ご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

当会は、柏崎刈羽原子力発電所の安全性と透明性を確保することを目的として、平成15(2003)年5月に設立され、現在、第10期の委員16名が、発電所のトラブルや規制基準、原子力防災、核燃料サイクル、高レベル放射性廃棄物の最終処分などをテーマとして、様々な議論を重ねております。

今般、令和3(2021)年5月から令和5(2023)年4月までの2年間の任期を終えるにあたり、第10期委員の活動を総括し、別紙のとおり要望書を提出いたします。

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、5月末日までに要望に対する回答をいただきますようお願い申し上げます。

—— 要望書の内容は裏表紙(5ページ目)に記載しています ——

今後の「地域の会」定例会の開催案内 ※開催日時や場所は変更になる場合がありますので、詳しくは事務局にお問い合わせ願います。

第240回定例会

日時：2023年6月7日(水) 18:30～20:30
場所：柏崎原子力広報センター 2階 研修室

第241回定例会

日時：2023年7月5日(水) 18:30～20:30
場所：柏崎原子力広報センター 2階 研修室

傍聴席は1F実験室に設けます。定員は20名程度です。

地域の会の活動はホームページでご覧いただけます。 <https://www.tiikinokai.jp>

1月議題「原発事故に関する3つの検証の説明会・意見交換会について(新潟県)」・2月議題「令和4年度新潟県原子力防災訓練について(新潟県・柏崎市・刈羽村)」に対する委員質問の回答について

〔前回定例会以降の動きについて〕

Q 原子力規制委員会の5人の委員が訪

第237回定例会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため会議時間を短縮して開催した。初めに前回定例会以降の動きについて、各オガバーから説明を受けて質疑応答を行った。後半では、1月議題「原発事故に関する3つの検証の説明会・意見交換会」及び2月議題「令和4年度新潟県原子力防災訓練」について、委員から寄せられた質問に対して県市村と東京電力から回答・説明を受け、さらに質疑応答を行った。



規制庁

委員長を含む5人の委員は、核物質防護の改善措置の状況を確認する目的で訪れた。委員長からいくつか課題はあると伝えていたが、核物質防護の観点から具体的な中身は控えたい。追加検査の状況に関しては公開の委員会の場でお伝えできればと思っている。改めて説明の機会を設けたい。また水素防護に関して、規制としてもフィルタベントの設置、その運用等を要求している。個々のプラントの特徴も踏まえた対策を自律的かつ計画的に実施することを事業者に求め、できることがあれば努力していただきたいということヒアリングを行っている。

委員長を含む5人の委員は、核物質防護の改善措置の状況を確認する目的で訪れた。委員長からいくつか課題はあると伝えていたが、核物質防護の観点から具体的な中身は控えたい。追加検査の状況に関しては公開の委員会の場でお伝えできればと思っている。改めて説明の機会を設けたい。また水素防護に関して、規制としてもフィルタベントの設置、その運用等を要求している。個々のプラントの特徴も踏まえた対策を自律的かつ計画的に実施することを事業者に求め、できることがあれば努力していただきたいということヒアリングを行っている。

東京電力

核物質防護関係の現場調査をしていたことにより、いただいたコメントにはしっかりと

と対応し、追加検査で確認いただく。コメントの中身はご容赦いただきたい。また、水素爆発を防ぐ対策として水素結合装置を設置しているが、各プラントの状況等を踏まえ、水素爆発を防ぐためのベント手順もきっちり定めていきたい。

意見

核物質防護事案だからと説明がないまま始めることのないようお願いしたい。

Q

水素防護対策のヒアリングは、規制庁としては十分だが事業者がいろいろプラズでやっているからなのか。または、解決できないところがあるのでいろいろ事業所からヒアリングしているのか。

規制庁

規制としての要求は相当程度実施していると思っているが、新たな技術的知見の反映を含め今後も更なるリスク低減を追及していく必要がある。今後のプラスαの対策、運用として引き続き検討を行っている。

Q

原子力災害を想定した冬季訓練を県が行った。雪のない海岸沿いの町で避難訓練を行って、避難計画のどこをどれだけ改善して向上させることができたのか。

新潟県

今回は冬季の夜間で停電を想定した訓練。県ではいろいろな想定、手段を用いた訓練を行うことで実効性を高めていきたいと考えている。積雪時の訓練は柏崎刈羽原子力防災協議会作業部会、関係機関の検討会で対応を考えている。今後も検討していきたい。

Q

GX(グリーントランスフォーメーション)会議の基本は省エネ。出力調整がうまくいかない原発をベースロード電源に使うことは省エネに反するのではないかと考える。たくさん電気を作ると産業構造や生活が電力の消費に傾いていくのではないか。

資源エネルギー庁

様々な発電方式を組み合わせるというところで、原子力発電も安全性を大前提に可能な範囲で利用していく方針。省エネをもっとやるべきというご意見も踏まえ、引き続き取り組んでいきたい。

Q 出力調整ができない夜間電力はどうするつもりなのか。

資源エネルギー庁

再生可能エネルギーの中でも太陽光は夜間発電できない。再エネだけでなくそれ以外の火力、原子力を含めた電源ミックスが今の政府の方針である。

規制庁

原子炉の脆性は監視試験片の結果で評価しているが、この監視試験片は一度使ったものを再生する方法が認められていないので無くないということは当面ないと考えている。

Q 60年超の運転となると、原子炉の中性子による脆性はどのように測るのか。

Q 試験片を調べて確認したとして原子炉は耐えられるのか。シユラウドのひびの問題もあったが運転期間60年になったからといって柏崎刈羽原発7つが全部大丈夫ということにならないか。

規制庁

柏崎刈羽原発のシユラウドのひび割れについては、補修を行ったものと一部はそのまま残しているものもある。それらは許認可の中で評価し特例的に使用を認めているが、安全性については継続的に定期事業者検査等を含めて問題ないことを確認している。今後安全規制の中で確認をしていくが、60年以降でそれをどのように評価するか今後検討することになる。

「1月議題「原発事故に関する3つの検証の説明会・意見交換会」、2月議題「令和4年度新潟県原子力防災訓練」について」

Q 具体性のあるかたちで複合災害に対する避難計画を作るべきだと思うが、県はそれを国に要請してきちんと検討する気があるか。

新潟県

豪雪時の対応について検討し、国に対して対応を求めている。検討状況を踏まえ避難計画に反映し、一段高い実効性のある計画にしていきたいと考えている。

Q 原発事故により放射性物質が放出された後にPAZ住民が避難することになった場合、UPZ住民と同時避難はあるのか質問し、同時避難になると回答があった。国の大もとの指針が変わらない限り考え方も変えられないのか。

新潟県

県の計画は国の指針に基づいて作成している。県独自の判断は難しく、必要があれば国が指針を改定し県はそれに基づいて対応を取るようになる。

意見 原子力規制庁の原子力災害対策指針が変わらなければ県の避難計画は変わらない。国にはその部分に向き合い、是非、同時避難の場合の指針を作っていたいただきたい。

意見 避難計画、防災訓練の練度を上げるのはもちろん大事だが、住民の理解が大切。さらに周知を広げ理解を深めるために企業や法人に対してもっと検討してはどうか。会社が社員を守るために教育していくことで住民への理解の増加につながると思う。

問題解決のためのアイデアを募る委員会やワーキンググループなどは県市村にあるか。自治体の担当者だけが考えるのではなく、民間の協力も仰ぎながら前向きな合意形成ができるような委員会や集団

を立ち上げていただきたい。

意見 原子力事故が自然災害から起こると仮定すると、原子力災害の発生までにはタイムラグがあると思う。原子力災害に発展した場合、避難所から別の避難所へ避難するケースが多いと思う。すでに避難所に行けた人への周知は楽かもしれないが、例えばラジオや防災無線が使えない中で避難所に行かずに自宅にいる人たちにもできるのか。そこに対してのアプローチが必要ではないか。一考をお願いしたい。



要望書の提出／ 第10期を振り返って(フリートーク)



第238回定例会は、第10期委員による最後の定例会となった。冒頭、三宮会長が2年間の活動を総括し委員の総意として取りまとめた要望書を関係機関へ手渡した。

その後のフリートークでは、委員から活動の思い出、発電所を抱える地域住民の思いやこれからの会に望むことなど、それぞれの思いを発言して第10期の活動を終了した。

【前回定例会以降の動きについて】

Q 昨日の5号機ランドリー建屋の火災について、発火した洗濯機

は何年製のものか。火災は行政による月例の状況確認と同日だったが、県市村から報告はなかった。確認はどのように行ったか。また、火災で県市村はどのような動きをしたのか。

東京電力

当該設備は1995年11月設置、翌3月から使用開始しているもの。昨日はまだ現場が火災対応中だったため、火災の状況はご説明したが現場の立ち入りはご遠慮いただいた。

新潟県

県は火災発生の一報を受け、周辺の放射線モニタリング状況を確認した上で、午前12時頃に第一報を報道発表し、鎮火確認の連絡を受けた後、午後1時頃に最終報を報道発表した。

柏崎市

防災行政無線で2回、市民にお知らせした。

刈羽村

消防署、東京電力から一報が入った際、初期消火が完了した旨を聞いていたため特に広報等はしていない。

意見

管理区域での火災ということでもかなりザワツとした。県市村にはどういった対応をしたかきちんと報告してもらいたい。鎮火しているから連絡しなくてよいとか、安全が確認されてから広報するのでなく、分かった時点で教えていただきたい。

Q

県の検証総括委員会、委員が任期切れになったが後任の名前が聞かれない。検証総括委員会は開かれるのか。今後どうするのか。

新潟県

知事は定例記者会見の中で一総括することは必要。どういふふうにするかは検討中」と答えている。

フリートーク

(第10期を振り返って)

意見 再生エネルギーや水素エネルギーをもっと普及させてほしい。

意見 避難計画について議論したことは大変ためになった。国全体のエネルギー政策をどうするのか。地球温暖化、台湾有事等、エネルギーに関して多岐な問題がある。原子力発電所の運転延長や最終処分問題についてもしっかりと国民に説明して、正確な知識を国民全体に持つてもらおう努力をすべき。

意見 毎回勉強させていただいた。全員は無理だと思いが、できるだけ多くの人が納得できる議論が今後この会で続くことを願っている。

意見 昨年頃から、原子力規制委員会が柏崎刈羽原発を視察するなど、本気度が伝わってきた。再稼働が達成されることを期待している。東京電力には地域活動にも積極的に参加いただき本場にありがたい。昨年、青森県のおつ市六ヶ所村の視察に参加

した。実際に目にして、素晴らしい施設と感じた。早く本格稼働ができるようになるといい。国の後押しはどうしても必要。先導し力を入れてもらえることを期待する。

意見 昨今のエネルギー問題で電気、ガス料金も上がっている。再稼働に向けて東京電力には期待している。

意見 原発のすぐ隣に住む一住民として会に参加して3年。各委員が反対・賛成の思いの中で発言し、互いに尊重しながら原発の安全安心を求める気持ちには同じと感じる。他に類をみない素晴らしい会だと認識している。2年前、東京電力には的確なりカバリーとリスクマネジメントについて言及したが、自己評価はどうだったのか気になる。政府が原子力発電の推進に舵を切り、柏崎刈羽原発の再稼働を視野に入れる限り、私たちは安心安全のために今後も見守っていききたい。

意見 委員として丸8年。原子力は難しく、よくわか

らないのが現状。今年の冬は大雪による渋滞など、大変なことがあった。電気自動車が身近になり、国も普及を進めている。避難計画で主に車での避難を考えているのであれば、電気自動車用の電源車を用意すべきではないか。

意見 いろいろな職種、思いの方が集まり、良い意味で言いたい放題の会だったと思っている。今後の会においてはテーマに沿って簡潔な発言を進めてもらいたい。原子力発電について、私は賛成でも反対でもなく、現実を見て進めてほしいというスタンス。絶対に安全な設備というものはない。しっかりと安全対策を進めてほしい。11期の方には今後もフリーに話せる雰囲気をお大切に、ご尽力いただきたい。

意見 委員になって6年。つくづく思うが、柏崎刈羽原発は東京電力自身が把握しきれないくらい広すぎて複雑な施設になったのではないか。再稼働には反対の立場だが、使用済核燃料がぎつしりと詰まっている限りは、東

京電力にしっかりと安全に管理してもらいたい。無理な動かし方はしないでほしい。地域の会は、その事実を知ること非常に役に立っている。

意見 今期は感染症もあり時間が短縮されたこともあるが、ディスプレイが深まらないと感じている。根本的な姿勢が違うので和気あいあいと話をするわけにはいかないが、行政の方には杓子定規な回答ではなく住民目線で、本音の回答をお願いしたい。

意見 東京電力が普段から訓練を行っていることは安全安心に貢献している良いことだと思う。世界の緊迫した情勢を考え、最悪な事態の備えと行動をお願いしたい。地域の会の委員の選び方については公募もありではないか。検討いただきたい。

意見 委員を引き受けて10年。発足当時の議論にも関わり、市民・村民から、事故隠しにお墨付きを与えるような会になるので、はないかと懸念されたが、私は地域の会には当初か

ら賛成だった。「透明性を確保する」とは、隠されていることを明らかにするという意味。今まで、説明されていないところを明らかにしたいという気持ちで質問してきた。安全性に関わることであれば発言を時間で制限するのではなく、お互いに質問や意見の質を考え、深めるような運営に今後は努力してもらいたい。

意見 この会はいろいろなスタンスの方々が多角的な視点で発言していいと思うし、それがイノベーションのヒントになればと思っている。ただ、持論を展開するだけの場でも、合意形成を行う場でも、是非を問う会でもない。他者の意見に耳を傾け、安全性を向上させるために何ができるのか住民の視点で問題提起を行う。それを生かしていくのはオプザーバーにかかっている。

意見 この2年間で強く感じるのは避難計画の問題。ド力雪の時は道路状況が良くなるまで屋内退避するということが言われ始めていたが、これは計画内容が後退していると思う。

8号線は全てトンネルにすればいいという記事を見たときに発想の転換も必要と感じた。来期も避難計画は特に力を入れて議論していきたい。また、この会は喧々諤々と議論をするような機会がなく、物足りなく感じる。言うときは言うという雰囲気も必要。お互いに切磋琢磨しながら住民のために頑張っていきたい。

意見 コロナ禍で休会もあったが、委員、オプザーバー、事務局に改めて感謝したい。皆様がそれぞれの立ち場で出席され、その中で会が運営されている。伺った意見を引き継ぎながら運営委員を中心に11期へ進めていただきたい。20年の歴史を引き継ぎ、議論を深めながら変えるべきは変え、今後も良くなるように進めていってほしい。



1. 国に対して

(1) エネルギー安全保障に対する原子力政策について(経済産業省、資源エネルギー庁)

ロシアによるウクライナへの侵攻により、世界経済は混迷の度合いを深め、エネルギー価格や物価の高騰、電力不足などが大きな問題となっています。また、原子力政策について国は、原子力発電所の活用を進めるとし、政策推進のために前面に立つと明言されました。しかし、原子力発電所立地地域住民には、国の具体的な動きがまったく見えず、必ずしもその本気度が伝わってきていないと言わざるを得ません。ついては、

- ① エネルギーの安定供給のための具体的な政策を、説明・周知していただきたい。
- ② エネルギー政策の基本的視点である「S+3E」の、国民的理解を深める活動を進めていただきたい。
- ③ 原子力発電所の運転期間の延長について、国の責任において、その安全性をより丁寧に電源立地地域の住民に説明していただきたい。

(2) 実効性のある広域避難計画策定への支援と施設整備について(内閣府、原子力規制委員会)

柏崎・刈羽地域では、毎年のように大雪による道路の渋滞や停電が発生し、今冬においても、北陸自動車道と国道8号が最大で50時間もの間、通行不能になったほか、約4日間に及ぶ大規模停電も発生しました。このような自然災害と原子力災害が複合的に発生した際の安全な住民避難は大きな課題であり、国が前面に立って、より実効性のある避難計画策定のための方策を示すことが必要であると考えます。ついては、

- ① 原子力災害対策指針のさらなる充実を図るとともに、より実効性のある避難計画の策定のため、新潟県と柏崎市、刈羽村に対する国の全面的な協力をお願いしたい。
- ② 広域避難のための道路整備と除雪、排雪、融雪施設等の整備拡充をお願いしたい。
- ③ 放射線防護施設、設備などの整備拡充をお願いしたい。

(3) 原子力発電事業への規制の強化について(原子力規制委員会、原子力規制庁)

令和3(2021)年4月、柏崎刈羽原子力発電所のテロ対策の不備が相次いだ問題で、原子力規制委員会は、同原発の核燃料の移動を禁じるなどの是正措置命令を出しました。現在、追加検査が行われており、移動禁止命令の解除を判断する時期は、見通せない状況となっています。ついては、

- ① 慎重かつ十分な審査の状況などについて、地域住民に対する丁寧な説明と適時適切な情報提供をお願いしたい。
- ② 原子力発電所の安全性を高めるため、現地事務所の人員を増強するなど、組織体制の強化をお願いしたい。
- ③ 一連の不祥事の再発を防止するため、原子力発電事業者に対し、更なる規制の強化をお願いしたい。

(4) 核燃料サイクルと高レベル放射性廃棄物の最終処分について(経済産業省、資源エネルギー庁)

国は、本年2月に高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する基本方針を改定すると発表しました。改定案では、最終処分の実現に向け「政府は丸となり、政府の責任で取り組む」とし、文献調査に関心を示す地域の関係先に対し、自治体が受け入れを判断する前から、国が検討を申し入れる考えを盛り込むとされています。ついては、

- ① 最終処分に向けた具体的な取組等の見通しを、明確に示していただきたい。

2. 新潟県・柏崎市・刈羽村に対して

(1) 実効性のある避難計画の策定について(新潟県、柏崎市、刈羽村)

当地域では、大雪のたびに重要な避難道路である北陸自動車道と国道8号の渋滞や通行止め、幹線道路の渋滞が繰り返されています。一方で、令和5(2023)年2月に行われた新潟県主催の冬季原子力防災訓練では、停電時の避難確認などが雪のない状況のなかで行われ、訓練の条件や内容に様々な課題が明らかになりました。ついては、

- ① 住民避難の実効性を高めるため、様々な条件下での訓練の実施をお願いしたい。
- ② 訓練によって明らかになった課題と住民の意見を踏まえ、新潟県、柏崎市、刈羽村3者の強力な連携のもと、より実効性のある広域避難計画の策定をお願いしたい。
- ③ 豪雪や風水害、猛暑等の自然災害と原子力との複合災害時における、より安全な住民避難の方法について検討をお願いしたい。

(2) 原発事故に関する3つの検証について(新潟県)

新潟県原子力発電所事故に関する3つの検証の一つである「健康・生活委員会健康分科会」の報告書が取りまとめられ、3つの検証のすべての報告書が出そろったことになりました。ついては、

- ① 検証総括委員会で十分に議論し、その結果を丁寧に説明していただきたい。
- ② 花角知事には、各検証委員会と技術委員会が出された結果を尊重し、最終的な判断をお願いしたい。

3. 東京電力ホールディングス株式会社に対して

(1) 信頼回復に向けた取組について

平成14(2002)年に明らかになった柏崎刈羽原子力発電所における「自主点検作業記録」の意図的な改ざん、隠ぺいなどの不正問題を契機に、地域の会は発足しました。その後も、IDカードの不正使用、核物質防護設備の機能の一部喪失及び安全対策工事の未完了、最近では審査書類の流用問題など、数多くの不適切な事象が発生しています。本社原子力部門の当地域への移転など、評価できる対応もありますが、全体的な取組としては極めて不十分であると言わざるを得ません。本年4月で10期20年の節目を迎える地域の会として、次のとおり強く要望します。

- ① 不適切な事象の原因究明を徹底し、責任の所在を明らかにするとともに、再発防止対策に加え、会社全体の意識・体質の抜本的な改革と継続的な見直しをお願いしたい。
- ② 地域住民をはじめ、新潟県、柏崎市、刈羽村及びその他周辺自治体に対して、迅速かつ正確な情報発信に努め、更なる連携を図りながら信頼性の向上に精励していただきたい。
- ③ 原子力発電所の運営という重大な責務を自覚し、高い規範意識と自己浄化能力を有する社員の育成と企業風土の醸成をお願いしたい。